

\\ Congratulations //

就任 のお知らせ

\\ Congratulations //



薬師台
デイサービスおはな

施設長
荻田 学

施設長の荻田です。こんどう整形外科での柔道
整復師・事務長としての12年の経験を活かし、
症状だけでなく身体全体の調和を整え健康を
根本から支えます。皆さまが日々安心して過ごせ
るよう、活気ある施設運営に努めてまいります。

こんどう 整形外科

リハビリ室 室長
桐生 誠一



リハビリ室長の桐生と申します。
リハビリ室では「自分らしく動ける喜び」を支える
ため、専門性の高いチームケアを実践しています。
患者様の目標に寄り添い、地域一番の回復を
全力でサポートいたします。

\\ より通いやすくなりました! //

木曜午後の整形外科診療スタート!

こんどう 整形外科

ななでも相談します。



関根先生

4月より、町田市のこんどう整形外科で木曜午後の整形外科診療がスタートしました。
これまで木曜午後は内科診療のみでしたが、新たに北里大学病院より関根先生を
お迎えし、毎週木曜日午後の整形外科外来を担当していただきます。
特に「膝関節」の診療を得意とされており、膝の痛みや違和感でお悩みの方には
大変心強い存在です。「階段の上り下りが辛い」「膝に水が溜まる」など、膝に
関するお悩みがある方は、ぜひこの機会にご相談ください。



なんでとったの?

自慢の!



資格

仕事に役立つような資格から趣味の資格まで。
スタッフの自慢&おもしろ資格をご紹介します!



陽だまりぼっぼ 鍼灸師 中橋 空輝 ・ガス溶接技能講習

実は私、鉄を垂鉛などで接合する「ガス溶接」の国家資格を持っています。高校生の時野球
推薦で石川の日本航空高校へ進学した際、取得した意外な武器です。当時は使い道なんて
ないと思っていましたが、唯一の出番は「椅子の修理」でした。授業中に椅子の足を浮かせて
座り、ポッキリ折ってしまうたびに「先生、直してきます!」と自ら溶接して現役復帰させられずに
回避。今は鉄ではなく、皆さんの不調を整え、心と体の繋がりをガッチリと「接合」しています!



Congratulations



薬師台おはなぼっぼクリニック

就任

呼吸の不安を、 気軽に相談できる クリニックへ

呼吸器診療の経験豊富な早川医師が おはなぼっぼクリニック副院長に就任しました。

4月より薬師台おはなぼっぼクリニックの副院長に就任いたしました早川です。
どうぞよろしくお願いいたします。

医師を志したきっかけは何ですか?

私が医師を志したきっかけは、生まれて間もなく大病を患ったことでした。
開院直後の北里大学病院で治療を受け、幸いにも一命を取り留めることが
できました。その後も経過観察のため定期的に病院へ通院しておりましたが、
幼い頃から優しく接して下さった先生方の存在が強く印象に残っています。
物心がついた頃には、自然と医師という職業に
憧れを抱くようになっていました。



地域医療への思い

私は、地域の皆様にとって
「安心して気軽に相談できる
医師」でありたいと考えて
おります。
また、高齢化が進む現代においては、
患者さんお一人おひとりの人生観や
思い、ご家族の考え方も大切にしながら、
その方に合った“オーダーメイド
医療”をご提案していきたいと思っ
ています。さらに、健康寿命を延ばすた
めにはアンチエイジング(抗加齢)医療
も重要だと考えております。「いつま
でも若々しく、元気に、自分らしく」を
目標に、美容も含めたアンチエイジ
ング医療についても地域の皆様へご
提案してまいります。



イキイキチキキ法人 泰大会

令和
8年 7月号
VOL.40

おさじとは?
江戸時代の大奥などで「医師」を
示す言葉でした。体に栄養を運ぶ
「おさじ(スプーン)」のように、皆様
に楽しんでいただける情報をお届け
してまいります。

これまでの経歴

医師となった後、ご縁があり呼吸器外
科へ進みました。肺がんをはじめ、結
核や非結核性抗酸菌症などの肺感染
症を中心に、約25年間診療に携わっ
てまいりました。
その後、20年間勤務した聖隷横浜病
院を退職し、綾瀬市のきくち総合診療
クリニックで幅広い疾患の診療に従
事してまいりました。そして今回、ご
縁をいただき、おはなぼっぼクリニ
ックに赴任いたしました。

プライベートの過ごし方は?

趣味は自動車、温泉旅行、YouTube鑑賞
など、比較的インドアなものが多
いです。
一人でのんびり過ごす時間を大切
にしており、心に余裕を持つことが、
良い医療や良い仕事につながると
考えています。



最後にひとこと

体の不調や不安なことがあった時に、「まずはおはなぼっぼクリニックで
相談してみよう」そう思ってもらえるクリニックを目指して、日々努めて
まいります。呼吸器の症状はもちろん、アンチエイジングに関するこ
とも含め、どうぞお気軽にご相談ください。

早川副院長の「息切れ外来」もはじまりました!

金曜午後の内科にて受付中、
詳しくはウェブサイト

Summer

ぼくの、わたしの 夏休みの思い出

陽だまりぼっぼ
鍼灸あん摩マッサージ師 **上野 尚樹**



昔の夏休みは、今よりずっと朝が待ち遠しかったものです。私の故郷、網代での一日は、まだ暗い午前四時のカブトムシ採りから始まりました。森の匂いを胸一杯に吸い込み山を駆け回った後、ラジオ体操を終えると、そのまま水着で海へ飛び込むのが日課でした。日が暮れるまで泳ぎ、肌にこびりついた砂と塩の感触。あれこそが私にとっての「夏の証」でした。当時の海岸沿いには古い街並みが残り、地元の象徴だった「さのや旅館」の佇まいや、共同浴場から立ち上る湯けむりが町に温かい情緒を醸し出していました。夜には花火が上がり、祭りの提灯が揺れる中、浴衣姿の観光客の笑い声と潮風に乗って届く祭囃子が心地よく混ざり合っていたものです。手元に当時の写真はありますが、あの網代の風景や温泉の温もりは、三十年以上この仕事をしてきた私の掌の中に今も鮮明に残っています。そんな故郷の記憶が、患者様と向き合う今の私の原点です。

昭和30年代中期



昭和50年代後期

薬師台おはなぼっぼクリニック
総務主任・診療放射線技師

中谷 健

私が子供の頃の昭和50年代の話ですが、夏といえば両親の実家がある愛媛の山奥の家で8月末まで過ごすのが恒例でした。当時住んでいた神奈川から愛媛まで電車で行き来しており、なつかしい0系新幹線の「こだま」で広島の上原まで行き、そこから船で瀬戸内海を渡って今治へ。さらに特急で宇和島へ向かい、最後はバスで広見町(現鬼北町)の山奥へと向かいました。早朝に家を出発し、到着するころにはすっかり夜になっていたのを覚えています。滞在中は、いとこたちと一緒に山や川、畑で一日中遊び回っていました。神奈川へ帰る際は、祖母が宇和島駅まで見送りに来てくれるのが毎年の恒例で、今でも思い出深い光景です。



皆様いかがお過ごしでしょうか？
今回は「昭和・平成の夏休みの過ごし方」をテーマに、
泰大会のスタッフへインタビューしました！
時代による過ごし方の違いに、「私もこうだった!」と懐かしんだり、
「最近はそんななの?!」と驚いたり、
皆様に当時の記憶を楽しみながら読んでいただければ幸いです。

昭和60年代前期

こんどう整形外科 事務長
釜房 祐至

湯河原の実家はミカン畑に囲まれた山の上であり、周りに家は4軒ほど。「ポツンと一軒家」に出てきそうな静かな環境から、海や町営プールまでは片道40分ほどの道のりを歩いて通いました。行きは期待に胸を膨らませて駆け下り、帰りは心地よい疲れと共に坂を登る。入場証代わりの「木札」を首から下げて泳いだ時間は、今思えば贅沢なひとときです。帰りに精肉店で買った1個60円の揚げたてコロッケを、友達と頬張りながら山道を歩くのが最高の楽しみでした。午後は福浦の海へ。近くの釣具屋で竹竿セットを100円で借り、テトラポットで釣りに夢中になりました。友達が隙間に落ちるハブニングもありましたが、それも今では良い思い出です。あの釣具屋もプールも今はもうありません。コロッケの匂いがした精肉店は、今も営業されているのでしょうか。形あるものは変わっても、潮の香りを感じるたびに、キラキラと輝いていた湯河原の夏が鮮明に蘇ります。



平成初期

こんどう整形外科 総務
長崎 智子

私の夏休みの思い出は、緑豊かな多摩市での日々詰まっています。小学生の頃は、毎朝早く起きて近所の公園で行われるラジオ体操に通うのが日課でした。眠い目をこすりながらスタンプカードを首から下げて集まり、スタンプが貯まる事の達成感や最終日にお菓子やアイスもらった時の嬉しい気持ちは、今でも鮮明に覚えています。高校時代になると、ハンドボール部のマネージャーとして、毎日泥だらけになって練習を支える日々でした。声を出して選手を鼓舞し、麦茶を準備してグラウンドを走り回りました。時には過酷な合宿も乗り越え、チーム一丸となって過ごした濃密な時間は私の青春そのものです。夏休みの思い出でも、無邪気にラジオ体操に通った小学生時代と、部活に全てを捧げた高校時代。どちらも色褪せることのない私の大切な宝物です。



薬師台おはな接骨院 &
鍼灸マッサージ院
柔道整復師

鈴木 歩未

幼少期の夏といえば、朝から庭で水遊びをし、向かいに住む幼なじみの家に行ってトマトやキュウリ、スイカを食べ、そのまま昼寝をし、午後は探検に出かける日々を送っていました。そんな探検(というかぼっぼ散歩)の思い出話でも。空き地だと思って遊んでいた場所が実は他所様の畑で、秘密基地だと言いながら何日もかけてガラクタを集め、しかも落とし穴を作っていたこともあり、しばらくして普段は温厚な祖父に怒られました。田舎ネットワークおそるべし。そもそも子どもが歩いて行ける範囲には駄菓子屋が1、2店。他は畑と田んぼののどかな地域で、春から夏になる頃は通学路にある桑の実を食べたり、梅雨に入る頃は田んぼの脇を通ってタニシの卵をつついたり。当時はもっと楽しいことがしたい!という感じでしたが、今となっては貴重な体験だったなあとしみじみ思います。

平成中期

